



带状疱疹ワクチンが定期接種化されます！

带状疱疹ワクチンが、**2025年度(令和7年度)から65歳以上の高齢者を対象に定期接種化**されます。带状疱疹は、水痘ウイルスに感染した後、体内に潜伏していたウイルスが再活性化することで発症します。主に高齢者や免疫力が低下している人々に見られ、症状としては体の片側に生じる痛みやかゆみ、発疹などです。**皮膚症状が治癒した後も痛みが残ることがあり、これは带状疱疹後神経痛と呼ばれ痛みが長く続くと日常生活に支障をきたす可能性**があります。



带状疱疹ワクチンは生ワクチン(ビケン®)と不活化ワクチン(シングリックス®)の2種類で、ビケン®は1回接種、シングリックス®は2回接種する必要があります。ビケン®を接種することにより60歳以上で带状疱疹発症を51.3%、带状疱疹後神経痛を66.5%減少させ、50~59歳では発症予防効果が69.8%とされています。効果は約5年間持続しますが、8年目には4.2%まで低下します。一方、シングリックス®は50歳以上で带状疱疹の発症予防効果が90%以上、带状疱疹後神経痛の予防効果は70%以上(50-69歳では100%)とされています。また効果は少なくとも10年間持続することが確認されています。

シングリックス®は高い効果と長い持続期間が特徴ですが、副反応(注射部位の痛みや腫れ、赤み、筋肉痛、疲労感、頭痛など)も多いです。一方、ビケン®は効果と持続期間はやや劣るため患者さんの状況に応じて選択することが重要です。**80歳までに3人に1人が罹患する**と言われ、早期発見、早期治療も重要ですが**何よりも予防が大切**です。带状疱疹発症リスクが高い患者さんには積極的にワクチン接種を勧めていきましょう。(呼吸器内科 野田 彰大)

	ビケン®	シングリックス®
種類	生ワクチン	不活化ワクチン
発症予防効果	69.8%	90%以上
带状疱疹後神経痛	66.5%軽減	70%以上軽減 ※50-69歳:100%軽減
効果持続	5年程度	10年以上
接種回数	1回(皮下投与)	2回(筋肉内投与)
副反応	注射部位の痛み・腫れ・赤み等	注射部位の痛み・腫れ・赤み、頭痛等 ※ビケン®より副反応多め
価格(現時点)	約8000円	約2万2000円/回 2回で約4万4000円
まとめ	副反応が少なく、安価であるが、効果はシングリックス®より劣る	予防効果は高いが、高価で副反応也多め、接種も2回必要

表. 生ワクチン(ビケン®)と不活化ワクチン(シングリックス®)について



抗菌薬のアレルギーについて~ペニシリン系~

ペニシリン系薬に分類される薬剤のアレルギー出現率は**抗菌薬の中で最多**であり、約5-10%と報告されています。しかし、ペニシリンアレルギーと自己申告する患者に遭遇することは多いが、それらの患者の約85-95%は皮膚試験で陰性との報告もあります。自称ペニシリンアレルギー患者に広域抗菌薬を使用されてしまうと**医療費の増大、耐性菌などの問題**に晒されます。そのようなことを避けるためにも**アレルギーの問診が重要**です。

ペニシリンアレルギーはアレルギー分類の観点から、**即時型(I型)、遅発型(特にIV型)**の頻度が高いとされています。有名な話では、I型のアレルギー反応は、年月と共に過敏性が低下することが特徴として挙げられます。そのため、ペニシリンアレルギーを自己申告する患者は多いですが、**真のアレルギー患者か判断するための材料として、問診でポイントを抑える必要があります**。どんな症状であるか、いつ起こったか、程度に関して等の情報を把握し、アレルギー原因薬剤の検討のため、**併用薬の確認**や同系統の抗菌薬の使用しての**症状出現の有無などの経過も把握し、スタッフ間で情報共有**しておくことで、**適切な薬物療法**に繋がっていきます。

タイプ	即時型		遅発型	
	I型	II型	III型	IV型
アレルギー型	I型	II型	III型	IV型
発症時間	数分~数時間	>72時間	10~21日	7-14日
症状	蕁麻疹 血管浮腫 掻痒感 気管攣縮 咽頭浮腫	血尿 蛋白尿	結節性紅斑 薬剤熱 間質性腎炎 リンパ節腫脹	斑状丘疹 固定薬疹 接触性皮炎

表. アレルギー反応の分類(参考:GellとCoombsの分類)

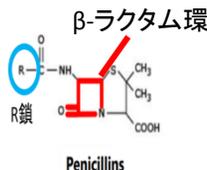
~Q&A~

Q. そもそも何故ペニシリン系菌薬はアレルギー反応を引き起こしやすいのか？

A. ペニシリン系は薬剤の構造に**β-ラクタム環**と**R側鎖**、2つの抗原になりえる構造が含まれているからです。具体的にペニシリン系菌薬のアモキシシリンやアンピシリンではR側鎖が第1、2世代セフェム系と側鎖が一致するため、交差反応の確立が高いとされています。

(薬剤部 堤 達哉)

β-ラクタム環を共有する薬剤(ペニシリン系、セフェム系、カルバペネム系、モノバクタム系)



※モノバクタム系
アズトレオナム(アザクタム®)はβ-ラクタム系抗菌薬間において交差反応が稀でペニシリン系アレルギー患者においても安全に使用可能です。